

I はじめに

名古屋大学は、21世紀の国際社会における本学の教育、研究、人材育成の基本理念を示すため、2000年2月に「名古屋大学学術憲章」を制定しました。

この「学術憲章」において、名古屋大学は研究面の拠点大学であると同時に、教養教育の重点大学となることを社会に宣言しました。そこでは、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てることを基本目標の一つとして掲げています。

「勇気ある知識人」とは何でしょう。よりよい未来社会を築き担っていこうとする姿勢と、それができるだけの素養・能力を備えたひとのことです。その素養・能力には当然のことながら、豊かな知識が含まれます。だから「知識人」でなければなりません。そして、その豊かな知識を現実には当てはめ、人々のより幸せな未来のために用いていこうとするコミットメントが必要です。しかし、それをしようとする、さまざまな軋轢が生じるでしょう。その軋轢を恐れることなく、学んだ知識・技能を役立てようとする勇気が必要です。哲学者のカントも、「己れの悟性を使用する勇気をもて」これが啓蒙の標語だ、と述べています。「勇気ある知識人」をわれわれの教育目標に掲げたのは、こうした思いに基づいています。

勇気ある知識人が身につけるべき素養・能力を授ける教育は、教養教育と呼ばれてきました。リベラル・アーツ教育とも呼ばれています。この「リベラル」は古代ギリシア民主政における、奴隷でない存在、つまりよき生を主体的に探求し公共的議論を通じて社会を動かしていく「自由人」に由来します。教養は自由人のための知でもあるのです。

名古屋大学では、この教養教育を全学の教員が学部の枠組みを超えて協力する形でつくりあげています。そのため、学部専門教育に対比して「全学教育」とも呼んでいます。そこで開講されている科目が「全学教育科目」、というわけです。

勇気ある知識人が身につけるべき素養・能力としての教養には、時代や地域を超えて変わらぬ部分と、それらに応じて柔軟に変化すべき部分の両面があります。その両面に対応し、よりよい教養教育を提供するため、2022年度から全学教育科目カリキュラムを大きく改善しました。

この「全学教育科目履修の手引 STUDENTS' GUIDE」は、本学の学生が全学教育科目を履修するにあたり、あらかじめ知っておかなければならない学修上の注意事項をまとめたものです。みなさんは本冊子をよく読むとともに、入学当初に開催する「学部ガイダンス」にも必ず出席して、間違いのないように、賢明に授業計画を立ててください。みなさんが授業計画を立てるにあたって不明な点や疑問に思う点があれば、所属学部の教務担当窓口または教養教育院事務室に問い合わせてください。また、指導教員（クラス担任）もみなさんの様々な疑問に応じてくれますから、遠慮なく連絡をとるようにしてください。

履修する科目の選択から実際に授業に参加し成績評価を受けて単位を取得するまでには、みなさんはさまざまな情報を自ら進んで収集し自分で判断する必要があります。そのための情報はおもに3つのチャンネルによって提供します。全学教育科目全体にかかわることは「名古屋大学ポータル」の教養教育院ページ、それぞれの科目の目的や内容・履修条件などは名古屋大学ポータル「の教務システムから参照する「シラバス」、それぞれの科目で提供される授業資料や自習用課題・補足資料などは「TACT」を通じて情報提供されます（詳細は26ページ「IX 学生への情報連絡の手段等」参照）。みなさんは、できるだけ早くこれらのシステムの使い方に習熟し、つねに自立的、自発的に情報収集に努めてください。

みなさんが教養教育の意義を正しく理解して勉学に励んでくださることを人類の一員として期待しています。みなさんが、主体的、意欲的に学び、才能を豊かに花開かせるとともに、未来社会の担い手に育っていくことができますように。